

うっしっしいー情報2021

5月市



豊岡農業改良普及センター

5月12日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が69万1千円、雌が78万5千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	6	0.991	686,583	9	0.858	716,833	15	704,733
丹波篠山	7	0.976	733,229	6	0.864	712,250	13	723,546
丹波	26	0.988	695,962	18	0.864	732,783	44	711,025
朝来	12	1.009	724,992	2	0.956	877,800	14	746,821
播磨	16	0.940	648,931	22	0.865	776,900	38	723,018
美方郡	47	0.940	676,523	37	0.867	826,219	84	742,461
豊岡	23	0.974	715,048	13	0.897	782,523	36	739,414
養父	21	0.943	720,343	12	0.862	800,250	33	749,400
摂津・神戸	16	0.999	717,131	17	0.856	821,312	33	770,800
県北C	13	0.919	615,746	4	0.811	715,275	17	639,165
市場全体	187	0.962	691,329	140	0.866	785,227	327	731,530

5月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	36	0.967	764,928	26	0.873	845,815	62	798,848
2	丸池土井	10	0.983	752,400	15	0.866	796,620	25	778,932
3	芳山土井	12	0.975	689,242	7	0.887	821,543	19	737,984
4	芳悠土井	23	0.974	692,857	17	0.858	794,135	40	735,900
5	丸春土井	15	0.986	699,087	11	0.848	775,600	26	731,458
	総計	187	0.962	691,329	140	0.866	785,227	327	731,530
6	照忠土井	16	0.939	669,625	13	0.855	778,462	29	718,414
7	宮菊城	9	0.962	663,422	6	0.949	723,617	15	687,500
8	照和土井	30	0.959	660,770	23	0.850	719,448	53	686,234

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A++	A++	A	A++	A++
2	丸池土井	D → C	A++ → A+++	C → D	A → B	A+ → A++	A++ → A+++
3	芳山土井	A+	A++ → A+	A++	C	A+ → A	A+ → A
4	芳悠土井	A	B	B	B	B	A++
5	丸春土井	C → B	C → A	B	B	B → A	A+ → A++
6	照忠土井	B	A++	A	A+	A+++ → A++	A
7	宮菊城	A+ → A	A++ → A+	A++	B → A	A+	A
8	照和土井	A+	A+	C	B	A	A+

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和03年3月現在)

子牛の仕事は「食べる」ことです！

○はじめに

日々牛舎管理の中で、少しでも良い子牛を作るために様々な努力をされていると思います。それでは、子牛の発育に影響する要因として、どのようなことが考えられるでしょうか。発育に影響する要因は大きく分けて3つあり、「子牛の能力」「牛舎環境」「飼養管理」が考えられます。「子牛の能力」については子牛が親牛から遺伝的に受け継いだものです。一方、「牛舎環境」「飼養管理」は人間が子牛に与えるものです。良い子牛を作るために、「牛舎環境」「飼養管理」を適切にし、「子牛の能力」を最大限引き出してあげることが重要です。そこで今回は採食行動に注目して「牛舎環境」を考えてみましょう。

○子牛は「食べる」ことが仕事

「食べる」という行為は、成牛にとってはもちろん、特に子牛では最も大切なことです。食べることで初めて体の成長、または体を維持する為の養分を摂取することができます。しかし、何らかの原因で十分に食べることができないと発育不足や、病気になりやすくなります。農家にとって子牛は商品であり、将来の繁殖雌牛です。健康に大きく育てるためには、子牛にしっかり食べて貰うしかありません。つまり、「食べる」ことは子牛の仕事なのです。子牛の飼養（仕事）環境を整えることが、農家の仕事になります。

それでは、子牛の飼養環境を整えるにはどこに着目すれば良いでしょうか？ それは、「給与飼料」と「飼槽」です。「給与飼料」については、平成27年7月～11月号に詳しく記載していますので、そちらをご確認ください。今回は「飼槽」について考えてみましょう。

○放牧場と牛舎では食べ方が違う！？

牛は、放牧場と牛舎で食べ方が違っているのはご存じでしょうか？

放牧時、牛が主に食べるのは放牧場に生えている牧草または野草です。このとき牛は地面に対し約60度で接し、一步脚を前に出しながら採食を行います（写真1）。そして首を左右に動かしながら採食を行い、届く範囲に草がなくなると前進し採食を行います。また、成牛は約30cm以上になる長い舌を持っています。牛はこの舌で、生えている草を巻き取るようにしてちぎりとり、口の中へ運んでいます。

一方牛舎では、牛は飼槽に給与された飼料を食べます。牛の立っている場所と飼料の間には、飼槽があるため、放牧時のように一步脚を前に出して食べるのではなく、前脚を揃えて食べます（写真2）。また、牛舎では牧草の他に濃厚飼料が給与されます。濃厚飼料の多くはペレットのような粒状や、粉末状です。牛は粒状の小さいものは草のように舌で巻き取って食べることができず、舌だけではなく唇も使い、飼槽の底で少量をまとめながら口の中へ運びます。



写真1 一步脚を前に出して食べる牛（奥）

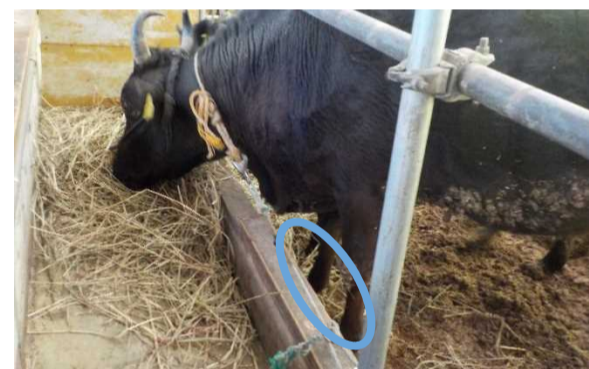


写真2 前脚を揃えて食べる牛

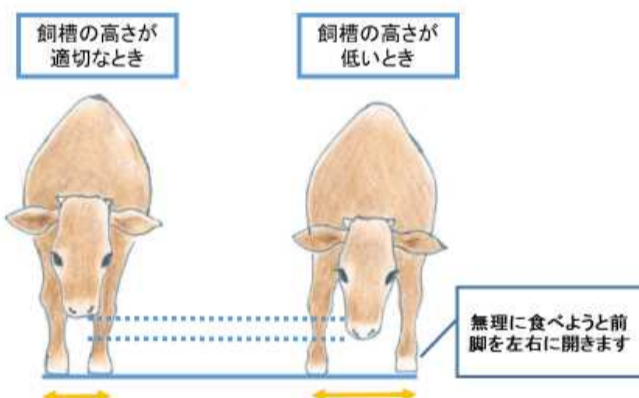


図 飼槽の高さが低いと前脚が開く

○飼槽の高さとません棒

前項で述べたように、成牛では放牧場と牛舎で食べ方は異なり、牛舎では牛の首が届く範囲が飼槽とません棒により制限されます。子牛も同様に、牛の行動を制限しつつ、飼槽とません棒を適切な高さにする必要があります。飼槽が低いと子牛は無理に濃厚飼料を食べようと、脚を左右に開いて体を低くします（図）。日常的に前脚を左右に開いて食べる姿勢を続けると、肩付きの悪い牛になってしまう可能性があります。

また、ません棒の高さにも注意が必要です。高すぎると子牛が脱走する要因になり、低すぎると餌が食べ辛く、また無理に食べようとして牛が怪我をしてしまう原因にもなります。き甲の少し下に当たる位を目安にしましょう（写真3）。

○牛が食べている様子を観察しよう！

食べやすい飼槽であるかは、牛に聞いてみるしかありません。餌やり後、子牛が食べている様子を観察してみましょう。前脚を開いて身を屈めて食べていたり、き甲にケガやこぶがある牛がいれば、飼槽の高さが合っていないか、もしくはません棒が低いのかも知れません。牛は与えられた環境でしか飼料が食べられません。しっかりと食べて貰うために、食べやすい環境を整えてあげましょう。



写真3 き甲とません棒

まとめ

- ・ 子牛は食べるのが仕事です。食べやすい環境を整えてあげましょう。
- ・ 飼槽やません棒の高さが合っていないと、ケガや体型が崩れる原因になります。
- ・ 牛が食べている様子を観察しましょう。食べづらそうであれば工夫をしましょう！